

2019年10月24日

一般選抜における「主体性評価」について

東京外国語大学

東京外国語大学では、高大接続改革答申に基づく学力の3要素を、多面的、総合的に評価するために、2021年度（令和3年度）入学の入試から、一般選抜の出願時に以下の情報を追加で求めます。

- (1) 高校（又は高校に相当する学校。以下同じ）時代に取り組んだことや将来に向けての意欲についての自己評価（チェックリスト）
- (2) 高校時代に主体性を持って取り組んだこと（200字以内）

本学の一般選抜では、ウェブ出願を導入していますので、これらの情報はパソコン等で入力して頂く予定です。

入力して頂いた情報は、調査書の内容と共に、合否判定ライン上に位置する志願者の選抜に用います。

※2020年度（2021年2月～3月）に実施する、2021年度（2021年4月）に入学する学生を選抜する試験からの変更です。

【参考】高大接続改革答申（中央教育審議会：2014年12月22日）で示されている「学力の3要素」

- (i) これからの時代に社会で生きていくために必要な、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を養うこと。
- (ii) その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと。
- (iii) さらにその基礎となる「知識・技能」を習得させること。